

平成24年度実施施策に係る事前分析表

別紙1

(環境省24-27)

施策名	目標6-1環境リスクの評価				担当部局名	環境安全課 環境リスク評価室		作成責任者名	早水 輝好 戸田 英作		
施策の概要	化学物質による人の健康や生態系に対する環境リスクを体系的に評価				政策体系上の位置付け	6. 化学物質対策の推進					
達成すべき目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学物質の環境実態調査を実施し、基礎資料として施策の策定に活用。化学物質の環境リスク初期評価調査を実施し、環境を経由した化学物質による影響の未然防止を図る。</li> <li>化学物質の内分泌系かく乱作用について調査研究を実施し、各化学物質が人の健康や生態系に及ぼす影響について明らかにし、リスク評価を実施する。</li> <li>子どもの健康と環境に関する全国調査を実施し、次世代育成に係る健全な環境の実現を図る。</li> </ul>				目標設定の考え方・根拠	化学物質環境実態調査推進検討会。化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会。中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会。子どもの健康と環境に関する全国調査基本計画。			政策評価実施予定時期	平成25年6月	
測定指標	基準値	基準年度	目標値	目標年度	年度ごとの目標値					測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
					24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
1 化学物質環境実態調査分析調査	-	-	-	-	115	-	-	-	-	化学物質環境実態調査推進検討会において、化学物質対策に係る関係各課室からの要望物質に基づき化学物質環境実態調査を行う物質数・媒体数については、毎年度選定することとされたため。なお、調査物質等は毎年度省内関係各課室から要望を聴取し決定しているため、25年度以降は未定。	
測定指標	基準	基準年度	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)					測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
					24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
2 化学物質の内分泌かく乱作用に関する試験方法及び評価方法の確立、並びに評価の実施										当事業において、これまでに開発した試験法をOECDでテストガイドライン化し、平成22年からは、EXTEND2010に沿って、化学物質の選定、個別の物質の試験を実施しており、今後はこの試験結果等を踏まえ、各物質の評価を進めることとしている。そのための情報収集及び調査研究について、目標を数値化して設定し、あるいは事後評価が可能な定性的目標を設定し、評価することは現時点で困難。	
測定指標	基準値	基準年度	目標値	目標年度	年度ごとの目標値					測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
					24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
3 環境リスク等初期評価実施物質数	57	H16年度	20	H23年度	未定	-	-	-	-	中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会において、環境リスク等初期評価実施物質数を毎年度更新することとされているため。	
4 子どもの健康と環境に関する全国調査の参加者(親子)数(累積)	-	-	-	-	74,000	100,000	100,000	100,000	100,000	子どもの健康と環境に関する全国調査基本計画に基づき、10万組の親子を対象とし、リクルート3年間、追跡調査13年間にわたる大規模疫学調査を実施する。	
達成手段(開始年度)	補正後予算額(執行額)(百万円)		24年度当初予算額(百万円)	関連する指標	達成手段の概要等						
	22年度	23年度									
化学物質環境実態調査費(関連:24-41)(昭和49年度)	409(308)	383	272	1	<達成手段の概要> 一般環境中の化学物質による汚染状況を具体的に把握するため、化学物質対策関連部署の要望に基づき毎年異なる物質を選定し、調査に必要な分析法の開発、及び地方公共団体への試料採取などの委託により、全国規模での環境調査を実施するとともに、環境残留性が高く環境残留実態の推移の監視が必要な物質については経年的な調査を実施する。 <達成手段の目標(24年度)> 115物質数、媒体数の分析 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 一般環境中の化学物質による汚染状況を具体的に把握する。						

(2)	化学物質審査規制法の優先評価化学物質に係る環境調査事業(関連24-41) (平成24年度)	-	-	45	-	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 改正化審法の下で優先評価物質として指定された物質について、高感度の分析法を用いて、水質、底質、生物及び大気等の環境媒体ごとに調査を行い、リスク評価を進める上で必要とされるばく露情報を的確かつ円滑に提供する。</p> <p>&lt;達成手段の目標(24年度)&gt; 16物質数・媒体数の分析 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 化審法による速やかな規制措置の実施等に貢献する。</p>
(3)	化学物質の内分泌かく乱作用に関する評価等推進事業(関連:24-41) (平成19年度)	255 (246)	345	234	2	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 化学物質の内分泌かく乱作用に関する評価等推進するため、必要な調査研究や試験法の開発、試験等を実施する。</p> <p>&lt;達成手段の目標(24年度)&gt; 必要な調査研究や試験法の開発等の進展 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 各化学物質の内分泌かく乱作用を評価するための手法等を確立する。</p>
(4)	微量化学物質健康影響評価等調査費 (平成8年度)	16 (24)	16	11	-	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 微量な化学物質と健康影響等との関連性についての知見の収集・分析を行うとともに、個体間の遺伝学的な差異にも着目しながら化学物質が及ぼす健康影響についての評価方法及びメカニズム解明方法等についての検討を行う。</p> <p>&lt;達成手段の目標(24年度)&gt; 遺伝学的な個体差や症状等に着眼して、微量な化学物質による健康影響について評価検討を行う &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 化学物質が及ぼす健康影響についての評価、メカニズムの解明</p>
(5)	化学物質の複合影響に関する調査事業 (平成8年度)	5 (0)	5	18	-	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 化学物質の複合影響について、国際的取組状況を含めた情報の収集及び調査研究等を実施し、行政的対応の必要性について検討を行う。</p> <p>&lt;達成手段の目標(24年度)&gt; 化学物質の複合影響についての科学的な評価手法の開発 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 環境を経由した化学物質による影響の未然防止を図る。</p>
(6)	化学物質の環境リスク初期評価推進事業 (平成9年度)	149 (116)	119 (114)	80	3	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 環境リスク初期評価を実施する。</p> <p>&lt;達成手段の目標(24年度)&gt; 中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会において、環境リスク等初期評価実施物質数を毎年度更新することとされているため未定。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会の議論も踏まえ、着実に環境リスク初期評価を実施する。</p>
(7)	子どもの健康と環境に関する全国調査 (平成14年度)	729 (444)	96 (93)	1,607	4	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 全国で10万組の参加者(親子)を募集・登録し、追跡調査を実施する。</p> <p>&lt;達成手段の目標(24年度)&gt; 74,000組の参加者(親子)の登録 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; より精緻で大規模な疫学調査を実施する。</p>